

< 入退院時等における医療との連携に関する事例 >

■事例演習の達成目標

- ①入退院時等における医療との連携における実践事例を通して、自らのケアマネジメントプロセス、課題や不足している視点を自己覚知(分析)を行うことができる。
- ②介護支援専門員が入退院時等における医療との連携についてどこまで理解し実践できているか把握し、介護支援専門員に対して根拠を明確にしながら指導(改善策)が実践できる。
- ③各圏域で作成している「入退院連携ルール」の(理解)活用とともに、医療職・多職種との連携方法等ネットワーク作りを指導できる。
- ④インフォーマルサポートを含めた地域の社会資源を活用しつつケアマネジメントを指導するとともに、入退院時等における医療との連携についての課題や不足している視点を認識し保険者に政策提言ができる。

■事例を選定する際の視点

■退院時、医療連携が必要となる指導事例

- ①入退院を繰り返していて、医療(職)との連携が必要な指導事例
- ②医学的管理が必要な指導事例
(吸引、胃ろう、バルンカテーテル、在宅酸素、インシュリン注射、褥瘡など継続した医療的管理・処置が必要な指導事例)
- ③退院時、療養生活指導を受け継続して医学的サポートを受ける必要のある指導事例

■提出する事例を上記の指定された類型とする理由

記入例：退院時において、帰宅後の主治医との連携に困っていた事例を指導した等